

## 国内流行株とは異なるクラスターに属する 牛ウイルス性下痢ウイルスの検出事例

清水誠也<sup>1)†</sup> 田中知未<sup>1)</sup> 新田 愛<sup>1)</sup> 木村美貴<sup>1)</sup>  
落井真史<sup>1)</sup> 安藤清彦<sup>2)</sup>

1) 福井県家畜保健衛生所 (〒918-8226 福井市大畑町 69-10-1)

2) (国研)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門

(〒305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2025 年 4 月 11 日受付・2025 年 7 月 8 日受理・2025 年 10 月 24 日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/10/78\\_e143/\\_article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/10/78_e143/_article-char/ja)

### 要 約

福井県の 1 酪農場で牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV) 感染による集団下痢が発生し、子牛 1 頭が持続感染 (PI) 牛として摘発された。PI 牛を産出した母牛の移動歴を調査した結果、妊娠 100 日前後に県内公共牧場で飼養されており、そこで BVDV に感染したと推察された。疫学調査の結果、BVDV の公共牧場への侵入経路の特定には至らなかった。牛ウイルス性下痢発症牛及び PI 牛から検出されたウイルスの 5' 非翻訳領域及び E2 領域について遺伝子解析した結果、BVDV2a に近縁で、塩基配列は 100% 一致した。E2 領域の分子系統樹解析の結果、本症例の原因ウイルスはアメリカの分離株に近縁で、既報の国内分離株とは異なるクラスターを形成した。これまでこのクラスターに分類される国内株の報告事例はなく、本症例は当該クラスターに分類される BVDV による初の症例報告である。

——キーワード：牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV), E2 遺伝子, 分子系統樹解析。

----- 日獣会誌 78, e143～e148 (2025)